

## 生涯学習課からのお知らせ

## 社会教育委員を委嘱しました

この度、下記の皆さんに町の社会教育委員を委嘱しました。任期は本年4月1日から2年間です。

○星 美法 さん（新在家）○増子 玲子 さん（樋ノ口）  
○大堀 明子 さん（上ノ上）○小檜山 芳子 さん（幸野）  
○鈴木 敦子 さん（廻谷地）○長谷川 好英 さん（西久保）  
○土屋 勇雄 さん（壺下）○酒井 栄喜 さん（猪苗代小学校長）

本年3月末日をもって委員を退任された、山野邊 喜勝 さん（金曲）、江花 俊和 さん（葉山）、安部 慎一 さん（本町）には、長い間ご尽力をいただき、ありがとうございました。

## 『母から子への手紙』新しい作品集が完成

猪苗代町絆づくり実行委員会では、「母から子への手紙」コンテストの第9・10回（平成22～23年度開催分）の入賞作品と第1～8回の大賞作品を合わせて107編を掲載した作品集を作成しました。また、第4～6回の作品集、第7・8回の作品集も在庫があります。いずれも1冊500円です。

興味のある人は学びいなまで。



## 町民テニス教室のご案内

これからテニスを始める人、上達したい人、一緒にテニスで汗を流してみませんか。初級者と中級者に分かれて硬式テニスを楽しくレッスンします。

- 日 時：6月2日、9日、16日、23日（いずれも土曜日）14:00～16:00
- 会 場：運動公園テニスコート（小雨決行）
- 参加費：4回で1,000円（傷害保険代含む。当日徴収）※カメリーナススポーツクラブ会員人は無料
- 申し込み：電話で5月31日（木）までに猪苗代テニスクラブ 押田まで。☎63-0668

## ◆体験交流館・図書室の休館日◆

学びいなに設置している図書室の5月、6月の休館日は次のとおりです。

5月6日（日）、5月28日（月）、6月3日（日）、6月25日（月）

## 町民ハイキングのご案内

- 開催日：6月30日（土）
  - 行き先：那須塩原方面
  - 対象者：町民または町内に通勤・通学する、健康で健脚な人（2時間程度歩きます）
  - 定 員：120人（定員になり次第、締め切ります）
  - 参加料：2,000円～3,000円程度
- ※参加申込方法、参加受付開始日などの詳細は、6月上旬の新聞折り込みチラシでお知らせします。
- 申し込みは電話・FAXでもできますが、来館者を優先します。



## 猪苗代町民マラソン大会のご案内

恒例となった猪苗代町民マラソン大会を開催します。この日だけは誰もがライバル、年に一度の大バトル！ゴールを目指して爽やかに汗を流そう！

- 開催日：6月24日（日）小雨決行
  - 会 場：亀ヶ城公園
  - 対象者：町民または町内に通勤・通学する人、もしくは町内のスポーツクラブなどに所属する人
  - 参加料：1人一種目 500円 親子競争 1,000円 リレーマラソン 2,000円
  - 種 目：親子競争（1km）、小学1・2年生（1.5km）、小学3・4年生（2km）、小学校5・6年生（3km）、中学女子（3km）、中学男子（3km）、リレーマラソン（1km×4名）ほか
- ※詳しくは、町体験交流館（学びいな）に問い合わせてください。



## 町内イベントのお知らせ

## 山野草を展示・販売します

猪苗代山草会主催の山野草展示販売会が町学びいなホールで行われます。200点を超える山野草の鉢植え展示に加え、チャリティー販売もします。



- 日 時：5月19日（土）9:00～16:00  
5月20日（日）9:00～15:00
- 会 場：町体験交流館・学びいなホール
- 入場無料

## 舞台劇『明治の兄弟～山川家の人々～』公演

平成18年に県教育委員会などが公募した「ふくしまの歴史と文化の再発見演劇祭」の作品に選ばれ、平成19年に福島市で初演後、県内各地はもとより、平成21年には鹿児島県でも公演された感動の演劇です。「戊辰戦争で戦ったもの同志が互いの悲しみを知り、心を許し合う実話」を猪苗代町でぜひご覧ください。

- 日 時：5月26日（土）昼夜2回公演  
昼の部：午後1時開演（開場は12:30）  
夜の部：午後6時開演（開場は17:30）
- 会 場：町体験交流館・学びいなホール
- 料 金：1,000円（当日券は1,200円、高校生以下無料）※チケットは学びいなで販売しています。宅配あり。
- 主 催：「劇団ぴーひゃらら」（会津若松市）
- 共 催：猪苗代町体験交流協会
- 問い合わせ：町体験交流館（学びいな）☎72-0180  
劇団ぴーひゃらら 近藤 ☎090-3365-1700

（土屋）  
美しい自然である。  
間の心を元気にするのは、失われつつある  
現在、川の蓋を開け、再び春の小川を取り戻そうとする動きが渋谷区民の間に広がっている。この種の出来事は、単なる郷愁の念に留まらず、一種の象徴的事件としてとらえるべきで、今後、開発と保護の問題は常に重要で基本的な課題となる。  
猪苗代は幸い自然がまだまだ豊かだ。人間の心を元気にするのは、失われつつある美しい自然である。  
昭和三十年代後半、東京オリンピック誘致に伴う大改造で辺りは一変し、川も暗渠化され下水道として利用されている。  
現在、川の蓋を開け、再び春の小川を取り戻そうとする動きが渋谷区民の間に広がっている。この種の出来事は、単なる郷愁の念に留まらず、一種の象徴的事件としてとらえるべきで、今後、開発と保護の問題は常に重要で基本的な課題となる。  
猪苗代は幸い自然がまだまだ豊かだ。人間の心を元気にするのは、失われつつある美しい自然である。

## 書画の会展を開催します

第21回を迎えた書画の会展示会が開催されます。会員30人の個性豊かな作品の数々をぜひご覧ください。今回は「如風庵」での初めての開催となります。



- 日 時：6月9日（土）～12日（火）9:30～16:30
- 会 場：如風庵
- 入場無料
- 問い合わせ：渡部信子 ☎64-2524

## 【あらすじ】

1868年（慶応4年）戊辰戦争が起き、西軍は母成峠を破り、猪苗代城下に攻め入ろうとしていた。猪苗代城代は亀ヶ城を焼き払い、さらに土津神社も焼くことを宮司に命じた。その一ヵ月後、鶴ヶ城は落城した。旧会津藩士である山川浩の妹で、日本人女性初のアメリカ留学を終えて帰国した捨松に、戊辰戦争の敵方である薩摩藩出身の陸軍大将大山巖から縁談話が持ち込まれた。山川家の兄弟は猛反対するが……。

教育委員会コラム  
（第二十四回）

♪春の小川はさらさら行くよ♪（原詩は流る、文部省が小学校低学年に歌わせるため、文語体を口語体に改めた）  
日本人の心の原風景とも言える名曲「春の小川」は、大正の初めころ作られた。作詞家がイメージしたのはこの小川かと、昔からいろいろ言われてきたが、作詞家の高野博士の家が渋谷区代々木にあり、そこを流れていた「渋谷川」ではないか、との一説がある。大正の初めころまでは、一面の田んぼや畑で、今のビルが林立する首都東京のど真ん中「渋谷」とは大違いであった。

渋谷川は、鉄分の多い関東ローム層の赤土を含む土砂が流れ込むため濁っており、渋谷の渋はここからきたという。数多くの支流をもつ川で、高野博士はそのあたりを散歩するのが好きだったらしい。  
昭和三十年代後半、東京オリンピック誘致に伴う大改造で辺りは一変し、川も暗渠化され下水道として利用されている。  
現在、川の蓋を開け、再び春の小川を取り戻そうとする動きが渋谷区民の間に広がっている。この種の出来事は、単なる郷愁の念に留まらず、一種の象徴的事件としてとらえるべきで、今後、開発と保護の問題は常に重要で基本的な課題となる。  
猪苗代は幸い自然がまだまだ豊かだ。人間の心を元気にするのは、失われつつある美しい自然である。